

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年1月14日

【四半期会計期間】 第34期第1四半期(自平成25年9月1日至平成25年11月30日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第33期 第1四半期 連結累計期間		第34期 第1四半期 連結累計期間		第33期	
	自 至	平成24年9月1日 平成24年11月30日	自 至	平成25年9月1日 平成25年11月30日	自 至	平成24年9月1日 平成25年8月31日
売上高 (千円)		3,664,359		3,455,557		14,366,178
経常利益 (千円)		239,952		201,708		818,329
四半期(当期)純利益 (千円)		118,396		129,744		572,392
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		129,372		153,684		623,518
純資産額 (千円)		5,907,659		6,359,380		6,324,475
総資産額 (千円)		17,617,494		17,199,240		17,513,731
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)		9.93		10.92		48.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		33.5		37.0		36.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期（平成25年9月1日～平成25年11月30日）におけるわが国の経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策により、輸出環境の改善や株価の上昇など緩やかな回復基調となりました。一方、新興国の減速を背景とした世界経済の下振れなどが国内経済を下押しする懸念要因となっております。

当社グループが属する健康食品業界は、消費者の健康維持・増進、疾病予防への意識の高さから安定的に推移いたしました。一方、企業間の競争は一層激しさを増しており、厳しい経営環境が続いております。

このような状況下当社グループは、主軸OEM事業において既存顧客の受注が堅調に推移したものの直販部門の苦戦や不採算店舗などの閉鎖が影響し、当第1四半期連結売上高は3,455百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益218百万円（前年同期比16.0%減）、経常利益201百万円（前年同期比15.9%減）となりました。一方四半期純利益は、法人税負担の軽減により129百万円（前年同期比9.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの主力事業である当部門は、既存顧客からの受注堅調により、売上高は前年同期比0.1%増となりました。引き続き人材の育成にも注力しており、営業の一層の強化に努めました。生産面では健康食品製造ラインにピロー包装機を追加導入し、また微粉碎機においても追加導入準備を進めました。

・海外部門

東南アジア圏を中心に美白商材が引き続き好調に推移いたしました。また、シンガポールにおいては消費者ニーズに一致した馬プラセンタが伸びました。しかしながら、価格競争の激化など市場環境が変化した台湾での苦戦が影響し、当部門の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

AFCブランド商品の新たな販路として、ロシア進出の準備を進めております。

・通信販売部門

前年に続き、新たな顧客開拓として異業種他社とタイアップした通販カタログ事業に注力いたしました。カタログ発刊のほか、工場見学会や健康セミナーの実施、タイアップ先のイベントへの積極的な出店など、AFCブランドの知名度向上と商品訴求に取り組み、堅実に販路を拡大しております。しかしながら健康食品における通販市場が低迷し、当社においても前年同期を下回る売上高となりました。

・卸販売部門

昨年7月に新発売した「ハートフルシリーズ」がドラッグストアを中心に順調に進捗いたしました。またネット販売業顧客への「ダイエットサプリ」、TVショッピング業顧客への「爽快柑シリーズ」が好調を維持しました。一方、一部商品の値崩れ防止のための商品絞込み、雑貨関連業務の不振、セールス人員の減少による販売促進不足が響き、部門売上高は前年同期を下回る結果となりました。

販路に適した新商品の開発を行うとともに販促物を充実させるなど、発売準備を整えております。

・店舗販売部門

百貨店店舗を販売拠点とする当部門は、試供品やリーフレットなど販促物を大幅に増やし、積極的に配布することで新規顧客の獲得および商品の拡販を図りました。また、次世代甘味料として注目が集まる“希少糖”を使用した希釈ドリンク「AFC 金時ジンジャーシロップ薑(はじかみ)」などは、“希少糖”のマスコミ報道を受け伸長しております。既存店ベースでは前年同期売上高を維持しましたが、不採算店舗などの閉鎖による店舗数の減少により部門売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,106百万円(前年同期比6.2%減)、営業利益273百万円(前年同期比15.1%減)(全社費用調整前)となりました。

医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効果効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担(医療費の自己負担)が小さいことなどを説明してきました。

また、一般用医薬品事業についても、積極的な営業活動及び販売促進活動などを行いました。

以上の結果、医薬品の卸販売部門においては、前年同期の売上高を上回ったものの、店舗販売部門における不採算店舗などの閉鎖が影響し、医薬品事業全体では、売上高が348百万円(前年同期比1.5%減)となりました。利益面については前途の不採算店などの閉鎖効果などにより、営業利益35百万円(前年同期比25.4%増)(全社費調整前)となりました。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ241百万円減少し、8,276百万円となりました。この減少要因は主として、受取手形及び売掛金が118百万円、仕掛品が54百万円増加した反面、現金及び預金が457百万円減少したことによるものであります。

固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ73百万円減少し、8,923百万円となりました。この減少要因は主として、償却により有形固定資産が91百万円減少したことによるものであります。

流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ47百万円減少し、6,690百万円となりました。この減少要因は主として、支払手形及び買掛金が116百万円増加した反面、未払法人税等が188百万円減少したことによるものであります。

固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ302百万円減少し、4,149百万円となりました。この減少要因は主として、長期借入金が268百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ34百万円増加し、6,359百万円となりました。この増加要因は、その他有価証券評価差額金が23百万円、四半期純利益の計上により利益剰余金が10百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は25,100千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,189,720	12,189,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	12,189,720	12,189,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月1日～ 平成25年11月30日		12,189,720		1,405,498		1,482,684

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 311,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,877,300	118,773	
単元未満株式	普通株式 720		
発行済株式総数	12,189,720		
総株主の議決権		118,773	

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	311,700		311,700	2.55
計		311,700		311,700	2.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,473,237	4,015,981
受取手形及び売掛金	² 1,829,848	² 1,948,187
商品及び製品	895,214	858,294
仕掛品	575,308	629,564
原材料及び貯蔵品	604,913	650,712
その他	191,222	182,554
貸倒引当金	52,182	9,088
流動資産合計	8,517,563	8,276,205
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,223,133	3,171,392
土地	4,002,184	4,003,657
その他(純額)	1,065,378	1,024,324
有形固定資産合計	8,290,697	8,199,374
無形固定資産		
のれん	7,142	6,887
その他	52,996	49,704
無形固定資産合計	60,138	56,591
投資その他の資産		
その他	652,769	720,226
貸倒引当金	7,437	53,157
投資その他の資産合計	645,332	667,068
固定資産合計	8,996,168	8,923,035
資産合計	17,513,731	17,199,240
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 1,554,929	² 1,671,166
短期借入金	3,816,170	3,821,531
未払法人税等	265,870	76,927
賞与引当金	95,800	122,142
ポイント引当金	50,000	47,000
その他	² 954,635	² 951,404
流動負債合計	6,737,404	6,690,172
固定負債		
社債	450,000	450,000
長期借入金	2,654,137	2,385,418
役員退職慰労引当金	346,704	352,126
退職給付引当金	184,116	188,456

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
負ののれん	4,506	4,365
その他	812,386	769,321
固定負債合計	4,451,850	4,149,687
負債合計	11,189,255	10,839,859
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	3,672,870	3,683,835
自己株式	228,223	228,223
株主資本合計	6,332,830	6,343,794
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,354	15,585
その他の包括利益累計額合計	8,354	15,585
純資産合計	6,324,475	6,359,380
負債純資産合計	17,513,731	17,199,240

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
売上高	3,664,359	3,455,557
売上原価	2,476,396	2,398,700
売上総利益	1,187,962	1,056,857
販売費及び一般管理費	927,623	838,212
営業利益	260,338	218,645
営業外収益		
受取利息	22	21
受取配当金	1,883	2,804
負ののれん償却額	140	140
助成金収入	7,446	4,623
その他	6,280	6,324
営業外収益合計	15,774	13,915
営業外費用		
支払利息	33,260	29,458
その他	2,900	1,393
営業外費用合計	36,160	30,852
経常利益	239,952	201,708
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2,863
特別利益合計	-	2,863
特別損失		
固定資産除却損	1,042	164
減損損失	5,861	-
特別損失合計	6,903	164
税金等調整前四半期純利益	233,048	204,407
法人税、住民税及び事業税	131,378	71,812
法人税等調整額	16,725	2,850
法人税等合計	114,652	74,663
少数株主損益調整前四半期純利益	118,396	129,744
四半期純利益	118,396	129,744

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	118,396	129,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,976	23,940
その他の包括利益合計	10,976	23,940
四半期包括利益	129,372	153,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	129,372	153,684
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
受取手形割引高	134,583千円	128,765千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
受取手形	10,220千円	19,565千円
支払手形	100,420千円	122,597千円
その他(設備関係支払手形)	13,296千円	613千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
減価償却費	140,519千円	123,553千円
のれんの償却額	18,206千円	114千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月27日 定時株主総会	普通株式	59,599	5	平成24年8月31日	平成24年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成25年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月26日 定時株主総会	普通株式	118,779	10	平成25年8月31日	平成25年11月27日	利益剰余金

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,310,284	354,074	3,664,359
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	3,310,284	354,074	3,664,359
セグメント利益	322,727	28,212	350,939

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	350,939
全社費用(注)	90,601
四半期連結損益計算書の営業利益	260,338

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,106,680	348,877	3,455,557
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	3,106,680	348,877	3,455,557
セグメント利益	273,872	35,373	309,245

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	309,245
全社費用(注)	90,599
四半期連結損益計算書の営業利益	218,645

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9円93銭	10円92銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	118,396	129,744
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	118,396	129,744
普通株式の期中平均株式数(株)	11,917,768	11,877,981

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 1月10日

株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 向 眞 生
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 大 須 賀 壮 人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの平成25年9月1日から平成26年8月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年9月1日から平成25年11月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年9月1日から平成25年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の平成25年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。